

アート・ドキュメンテーション学会 (JADS)

第36回(2025年度)年次大会

日時 2025年6月14日(土)、15日(日)

会場 國學院大學 渋谷キャンパス 5号館 5301教室
東京都渋谷区東4丁目10-28 ・オンライン (ハイブリッド型)

お申込 6月9日(月) 締切

<https://jadsconf2025.peatix.com>



お申込みは
こちらから

シンポジウム

ミュージアムの学芸業務に活かすコレクション情報管理

【プログラム概要】

- 6月14日(土) (午前) 見学会(予定) ※詳細は後日お知らせします
(午後) シンポジウム、動向紹介、野上賞授賞式、懇親
- 6月15日(日) (午前) 総会(会員限定)
(午後) 研究発表会、ポスターセッション、活動紹介

【参加費(両日共通)】

- 5月31日(土)まで
会員・賛助会員：1,000円 / 非会員・団体購読会員：2,500円 / 学生無料
- 6月1日(日)以降
会員・賛助会員：1,500円 / 非会員・団体購読会員：3,000円 / 学生無料

※ 参加方法問わず同額となります。(資料代は含まれません)
※ 予稿集はPDFでご用意します。参加申込の方にご案内するURLからダウンロードしてください。

【会場へのアクセス】

渋谷駅から

渋谷駅 (JR各線・地下鉄各線・東急各線・京王井の頭線) から徒歩約13分

渋谷駅 (JR各線) 新南改札から徒歩約13分

都営バス (渋谷駅東口バスターミナル54番のりば 学03日赤医療センター前行) 「国学院大学前」下車
(運賃180円・IC178円) 【渋谷駅から3番目の停留所、所要時間約10分】

表参道駅から

表参道駅 (地下鉄半蔵門線・銀座線・千代田線) B1出口から徒歩約15分

恵比寿駅から

恵比寿駅 (JR山手線・埼京線・湘南新宿ライン、地下鉄日比谷線) から徒歩約15分

都営バス (恵比寿駅西口ロータリー1番のりば 学06日赤医療センター前行) 「東四丁目」下車
(運賃180円・IC178円) 【恵比寿駅から3番目の停留所、所要時間約10分】

主催：アート・ドキュメンテーション学会 (JADS) | 共催：國學院大學博物館 / 図書館

お問い合わせ：アート・ドキュメンテーション学会 2025年度年次大会実行委員会
jads_conf2025@googlegroups.com

第1日目 6月14日 (土)

シンポジウム

ミュージアムの学芸業務に活かすコレクション
情報管理

ミュージアム運営の基盤である作品・資料の内包する情報と価値を適切に把握し、社会と共有するための解決の道筋の一つとしてコレクション情報のデジタル化が提起されて久しく、近年の博物館法改正により、「博物館資料に係る電磁的記録の作成と公開」が法令上の業務として位置付けられるに至った。しかし、多くのミュージアムの現場では、学芸業務とデジタル化との関係について試行錯誤が続いており、理論的な裏付けと、経験の共有が求められている。

今回、長く歴史的な資料コレクションを構築してきた國學院大學博物館/図書館と共催する年次大会で、この課題に取り組んできた美術館・博物館の実践に関する報告をいただくとともに、コレクション情報のデジタル化を学芸業務に対してどのように積極的に活用してゆかかという展望を示すことを企図して、シンポジウムを開催する。

○ 開会挨拶 12:30~12:40

田良島 哲 (アート・ドキュメンテーション学会 会長)

○ シンポジウム 12:40~16:40

趣旨説明

田良島 哲 (東京文化財研究所 客員研究員)

登壇者

村田 良二 (東京国立博物館・博物館情報課長)
星野 靖二 (國學院大學日本文化研究所所長・教授)
深澤 太郎 (國學院大學博物館・教授)
及川 聡 (國學院大學博物館 副館長/学術メディア
センター事務部主幹)
東海林 洋 (ポーラ美術館・学芸員)
三浦 梨絵 (宇部市緑と花と彫刻の博物館 (ときわミュージアム)・学芸員)

パネルディスカッション・質疑応答

○ 動向紹介 16:40~17:10

安達 匠 (國學院大學 学術メディアセンター事務部図書館
担当部長)

○ 第19回 野上紘子記念アート・ドキュメン
テーション学会賞・奨励賞授賞式

17:20~18:10

○ 懇親会 18:20~

会場：カフェラウンジ若木が丘 [学術メディアセンター1階]

懇親会参加費：5,000円 (事前申込制)

第2日目 6月15日 (日)

○ 学会総会 (会員限定) 10:00~12:00

○ 研究発表会 [発表1~4] 13:00~15:00

岩崎 絵里加 (東京国立博物館)
情報と人の動きを統合した博物館における資料利用サービスの
設計と実践

原 翔子 (東京大学)
展覧会情報の階層的分析について

三谷 直哉 (国立文化財機構 文化財防災センター)
令和6年能登半島地震文化財レスキュー事業日報の計量的分析

毛塚 万里 (記録資料研究所/志度寺)
基礎自治体のデジタルアーカイブからMLA連携の今後を考える

○ ポスターセッション 15:00~15:40

堀 咲子 (筑波大学大学院/日本学術振興会特別研究員 (DC2))
オランダの Society for Japanese Arts アーカイブズについて

矢部 恵子 (国立歴史民俗博物館)
平沢「光彩」の仕事——光の差さない画室から生まれた「コレク
ション」を辿って

植石 もも子、鳥越 千尋 (東京都江戸東京博物館)
東京都江戸東京博物館の収藏品管理システム——図書資料
との一元管理を中心に——

阿児 雄之 (東京国立博物館)、北岡 タマ子 (人間文化研究機構)、
田良島 哲 (東京文化財研究所)、福島 幸宏 (慶應義塾大学)、
本間 友 (慶應義塾大学)、山内 利秋 (九州医療科学大学)
博物館活動における情報・メディア論の位置付けについて

○ 活動紹介 15:40~15:50

大内 静華 (奈良国立博物館)
奈良国立博物館のポスター収集の試み

コレクションSIG (アート・ドキュメンテーション学会)
コレクションSIG、発足!

○ 研究発表会 [発表5~7] 15:50~17:20

若月 憲夫 (茨城大学)、杉浦 幸子 (武蔵野美術大学)
ドキュメンテーションの可能性——市井のコレクションがアートと
ミュージアムの概念を拡張する

赤間 亮 (立命館大学アート・リサーチセンター)、村上 佳奈子、
新名 佐知子 (秩父宮記念スポーツ博物館)
スポーツ雑誌記事への効果的なアクセス作成の手法：「アサヒ・ス
ポーツ」を事例に

川口 雅子、谷口 英理、石黒 礼子 (国立アートリサーチセンター)、
手銭 和加子 (株式会社TEZEN)
アートプラットフォームジャパンにみる情報連携と対外発信をめぐる
課題

○ 閉会挨拶 17:20~17:30

本間 友 (アート・ドキュメンテーション学会 幹事長)